

臨時号

紫野だより

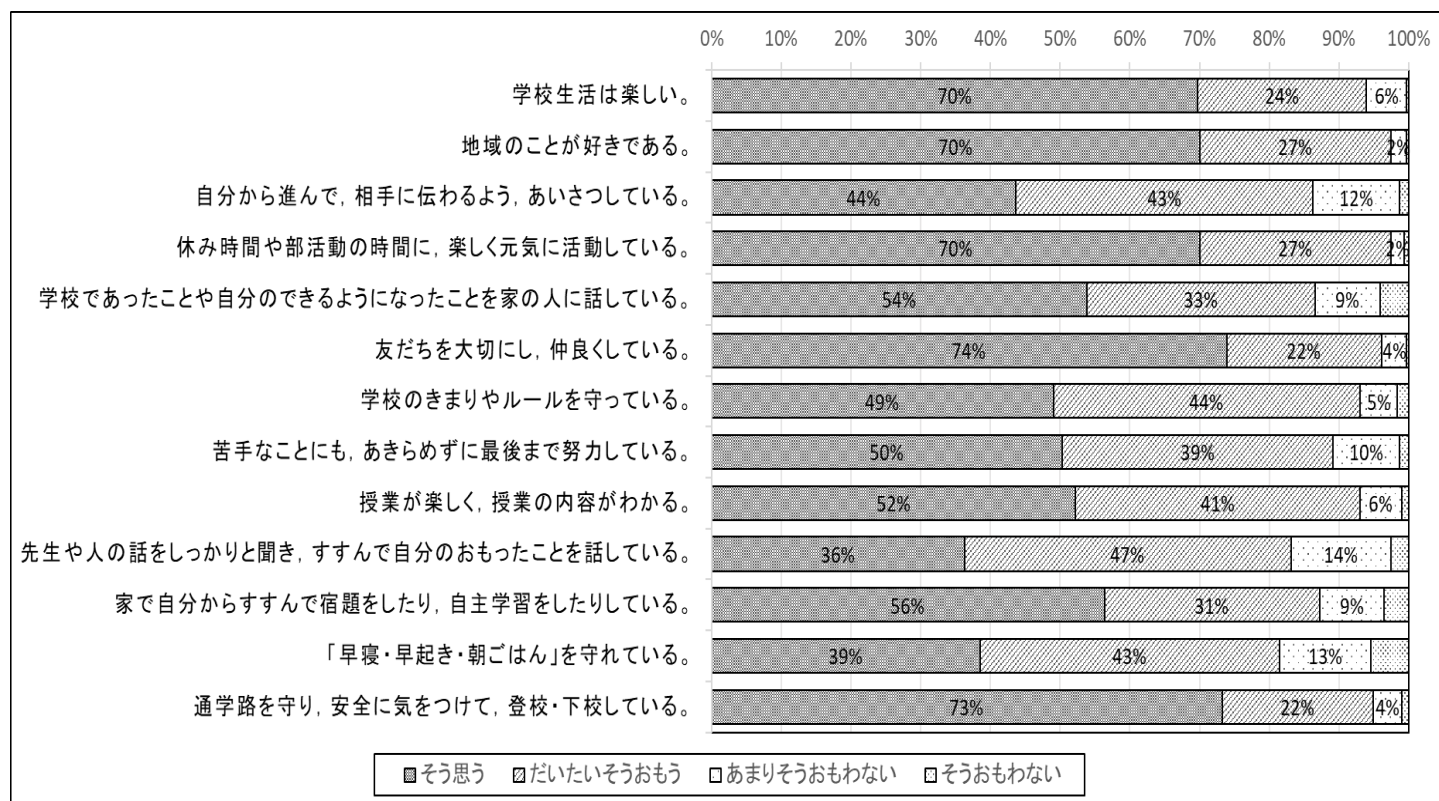
令和5年3月7日
京都市立紫野小学校
校長 松下 誠太郎

学校教育目標 夢に向かって自ら未来を切り拓く子どもの育成

令和4年度後期 紫野小学校教育評価アンケート集計結果のご報告

多くの皆様方にご回答いただき、ありがとうございます。集計結果についてご報告させていただきます。

【児童自己評価】



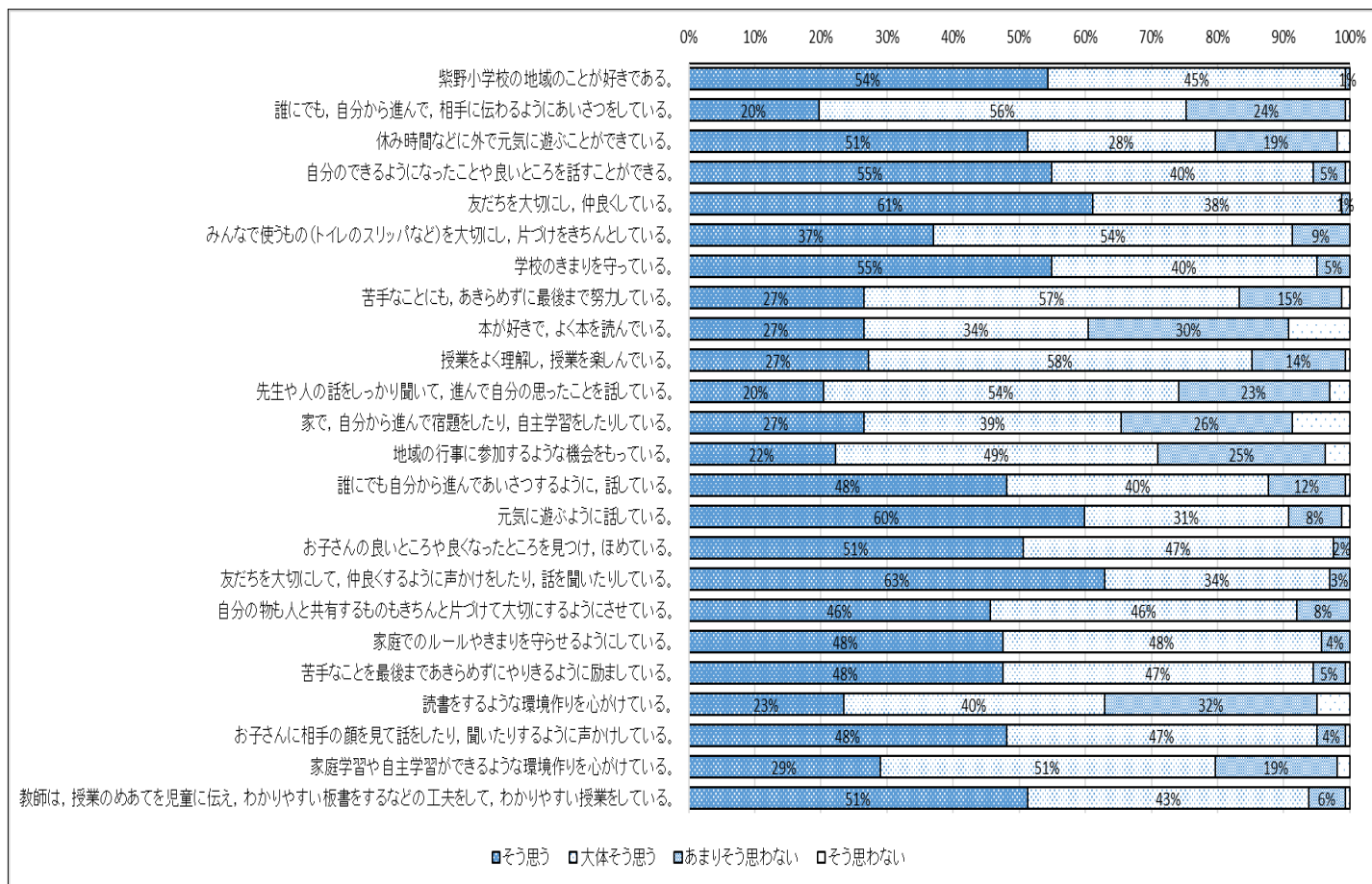
< 考察 >

「そう思う、大体そう思う」を合わせて数値の高い5項目は、「地域のことが好きである(97%)」、「休み時間や部活動の時間に、楽しく元気に活動している(97%)」、「友だちを大切にし、仲良くしている(96%)」、「通学路を守り、安全に気をつけて登校・下校している(95%)」、「学校は楽しい(94%)」です。中でも特筆されるのは、「地域のことが好き」と答えた子どもが大幅に増えたこと(92%⇒97%)です。「子どもたちの笑顔が見たい」と尽力いただいている地域諸団体の方々等の願いや取組が、子どもたちへと確かに渡されていることの証でありますし、総合的な学習の時間に、地域学習を実践している一つの成果ともいえます。その他の項目については、前期とほぼ同じ結果が得られています。子どもたちが、友だちを大切にしながら、仲よく元気一杯活動している様子や、通学路を守りながら安全に過ごしている様子が伺えます。

この傾向は、各家庭で大切にされている事柄に重なります。皆様がお家で、「優しさや思いやり、和の心」を、子どもたちに呼びかけ育んでおられるのだと思います。学校でも、日頃より、「人権についての学習」を大事にしています。互いのよさや頑張りを認め合い、互いに尊敬の拍手を送り合えるように、そして、人の「いのち、心、生き方」を徹底的に大切にできるように、今後とも働きかけてまいります。

今回のアンケートでも、「進んであいさつすること」や「人の話を聞いて進んで思いを話すこと」については、改善へ向けての取組が必要だといえます。ことに、あいさつについては、人と人とが繋がるための一歩でもあり、将来に向けて身に付けておきたい習慣でもあります。気持ちのよいあいさつの声が響く学校でありたいと願っています。実践できるように力を注ぎたいと考えています。

【保護者学校評価】



<考察>

今回の結果で特筆されるのは、「紫野小学校の地域のことが好きである(99%)」の項目です。これは、児童の回答結果と一致しています。地域の方々が、「子どもたちのために」取り組んでくださっている姿であり、保護者の皆様も子どもたちに、「素敵な地域だね」とご示唆頂いている姿だと言えます。また、子どもたちの様子を見て、「友だちを大切にし、仲良くしている(99%)」、「学校のきまりを守っている(95%)」と感じていただいていることもわかりました。これらについては、「友だちを大切に、仲良くするように声かけをしたり、話を聞いたりしている(97%)」というお家での声かけが子どもたちに届いている証でもあります。また、「お子さんの良いところや良くなったところを見つけ、ほめている(98%)」という子育ての姿勢は、素晴らしいと思います。子どもたちも、お家の方や教職員から「認められている」との安心感の中で、日々の生活を送っていると思えるのです。

一方、結果考察から、取組の上で留意しなければならないことも見えてきます。例えば、読書に関することや自分から進んで課題に取り組む姿勢などです。「読書」の大切さは、ICTが今以上に活用される時代になっても、変わりはないと思われます。書物に触れ、親しみ、向き合うことにより、思い考える力や感性が育っていきます。本校では、校舎リニューアル工事に伴い、図書室とコンピュータールームが一体化した「メディアセンター」が誕生します。その有効活用や読書活動の充実に向けて、カリキュラムを整えたいと思います。

新たな紫野小学校が生まれてちょうど4年となります。学校においては、「地域（人・もの・こと）」の素晴らしさを実感できる学習をさらに重ねるとともに、探究活動や問題解決的な学習など、子どもたちが問題意識をしっかりとち、自ら進んで学習に臨む意欲を引き出せるようにしたいと思います。

子どもたちの健やかな成長には、私たち大人の関わり方が大切です。今後とも、教職員一同、全力で粘り強く学校教育の推進に当たってまいります。保護者や地域の皆様におかれましては、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。